



【狩野信信筆 孔雀・鳳凰図より】

東京都指定史跡

奥絵師 狩野家墓所

池上本門寺には、江戸画壇の頂点を極めた奥絵師四家など狩野派諸家の墓所が残されています。江戸狩野二五〇年余の歴史を伝える貴重な史跡です。

墓所参詣にあたって

- ・墓所は先人が眠る浄域です。騒いだり、汚したりしないよう、マナーを守ってお参りください。
- ・墓所内は小石や苔等により滑りやすくなっていますので、足元にご注意ください。
- ・墓所の配置や絵師名については内面を参照ください。

奥絵師 狩野家墓所の調査

当山では平成14年(2002)に迎えた日蓮聖人立教開宗750年を慶讃し、五重塔(国指定重要文化財)の修理および周辺整備を行いました。それに伴い整備区内に所在した、木挽町狩野家当主の常信・周信・養信墓所(本紙記載墓所番号31~33)を移転改葬し、考古学的方法による学術調査を実施しました。その結果、各墓所の構造が判明するとともに、常信・周信墓では多くの副葬品が検出されました(調査の詳細は坂詰秀一編2005『池上本門寺奥絵師狩野家墓所の調査』参照)。副葬品は生前に所持・愛用していたものとみられ、絵師の生活や嗜好、信仰を知ることができる貴重な遺品です。出土品は墓所や位牌とともに東京都の文化財に指定されています。

狩野養信 復顔像 弘化3年(1846)没



◆遺骨の科学的調査に基づき復元された養信の顔(CGにより彩色)。

狩野常信 副葬品 正徳3年(1713)没



◆漆塗煙管箱に収められていた喫煙具。煙管2本、火打ち石や煙草が入った青銅製小箱3点、火打金、毛抜がセットになっている。



◆銅製と水晶製の軸先で、法華経8巻と開結2巻(無量義経、観音賢経)に用いられていたものであろう。常信は経巻を抱くように埋葬されていた。



◆刀装具の一部。常信は帯刀の状態で見送られていた。刀身は木製(たけみつ)で、拵の鐙、拵、小柄が残っていた。

狩野周信 副葬品 享保10年(1725)没



◆長さ21cmの黒漆塗の小さな筆箱に、筆、硯、青銅製の水滴・小物入(顔料入)・定規・ヘラが機能的に収納されていた。残念ながら筆箱本体と筆は腐朽が著しく、保存できなかった。上掲写真は出土直後に撮影したもの。



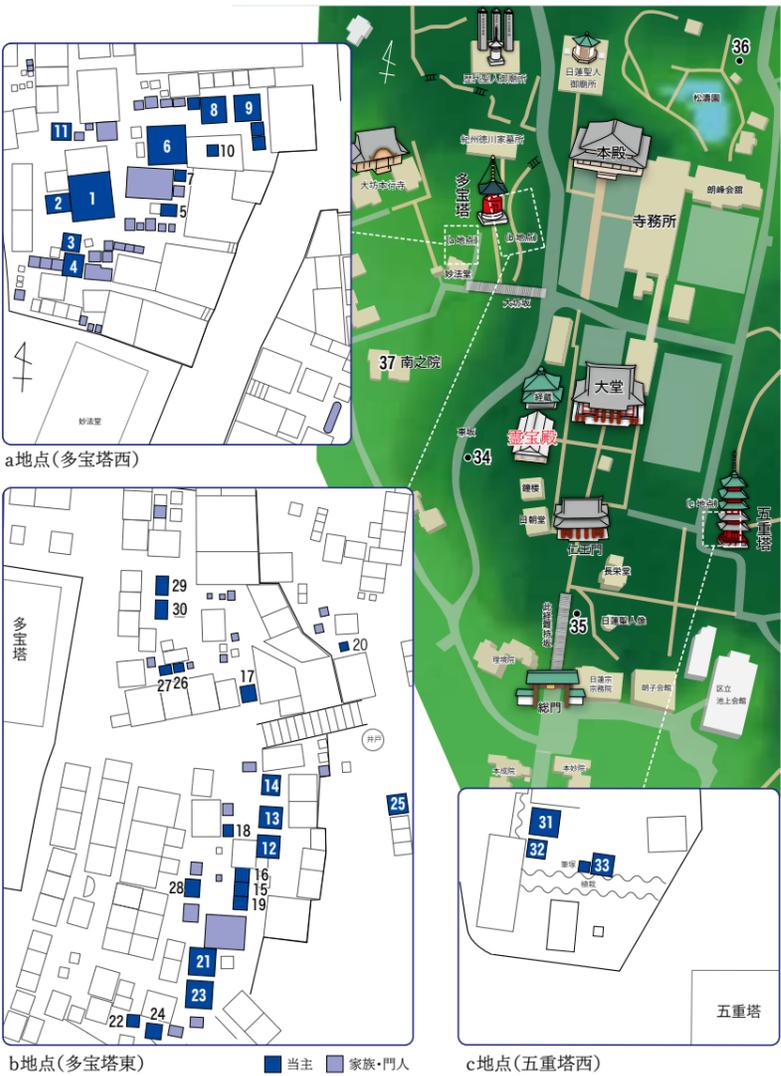
◆筆筒状小箱に収められていた香道具。左は香を焚く際に用いる銀葉。右は幅約3.5cmの小さな青銅製の箱で、精巧な雷神紋があらわれている。香木片、香匙なども検出されている。



◆眼鏡(水晶製レンズ)、寛永通宝、筆房(キャップ)、煙管など。眼鏡は度数からみて老眼鏡として用いられていたようだ。

狩野家墓所の位置

※墓所の番号は位置、一覧、写真とも共通しています



現在、本門寺境内には約90基の狩野家関連墓所が残っています。本紙ではその中心となる奥絵師※当主や高弟の墓所34基、記念石造物2基、関連寺院を紹介します。

※【奥絵師】幕府に仕えた御用絵師の筆頭。狩野家で、鍛冶橋・木挽町・中橋・浜町の4家がある。

掲載墓所一覧

番号	家名	絵師名	没年	法号
1	鍛冶橋①	探幽守信	延宝2(1674)年	玄徳院日道
2	鍛冶橋①	探幽守信	延宝2(1674)年	玄徳院殿前法眼守信日道
3	浜町①	随川岑信	宝永5(1708)年	覺樹院殿岑信大盛日量大居士
4	木挽町④	栄川古信	享保16(1731)年	法性院古信日大居士
5	浜町③	常川幸信	明和7(1770)年	随柳齋幸信了性日明居士
6	木挽町⑥	栄川院典信	寛政2(1790)年	法壽院殿榮川院法印白玉翁典信日妙大居士
7	浜町④	閑川昆信	寛政4(1792)年	青披齋昆信閑了日壽居士
8	木挽町⑦	養川院惟信	文化5(1808)年	養川院殿玄之齋法印惟信日詔大居士
9	木挽町⑧	伊川院栄信	文政11(1828)年	伊川院殿玄賞齋法印榮信日宣大居士
10	木挽町⑨	勝川院雅信夫妻	昭和14(1939)年	勝川院殿雅信日馨居士
11	浜町⑨	春川友信夫妻	明治37(1904)年	春川院殿友信日聖居士他
12	鍛冶橋	右近孝信	元和4(1618)年	圓大院孝信日養
13	中橋⑥	左近貞信	元和9(1623)年	安心院殿貞信日理大居士
14	木挽町①	主馬尚信	慶安3(1650)年	圓心院賞諦日徳
15	中橋⑦	永真安信夫妻他	延宝9(1681)年他	長源院殿法眼永真 []
16	中橋⑨	永叔主信	享保9(1724)年	松岸院殿前大藏卿法眼永叔日長大居士
17	探幽門人	加藤逸澤	享保15(1730)年	覺性院圓宅日理居士
18	木挽町⑤	受川玄信	享保16(1731)年	植種院玄信日沾
19	中橋⑩	永真憲信	享保16(1731)年	得解院永真日經大居士
20	浜町②	隋川甫信	延享2(1745)年	青柳齋甫信雪巖日縁居士
21	中橋⑪	祐清英信	宝暦13(1763)年	如川院殿大藏卿
22	中橋⑪	祐清英信夫妻 永徳高信夫妻	宝暦13(1763)年他	如川院、聽受院他
23	中橋⑫	永徳高信	寛政6(1794)年	聽受院殿治部卿永徳法眼高信成文齋日意大居士
24	中橋⑬	永賢泰信	寛政10(1798)年	秋巧院殿永賢泰信日微大居士
25	浜町⑤	融川寛信	文化12(1815)年	畫院法眼狩野融川藤原寛信先生之墓
26	浜町⑥	舜川昭信	文化13(1816)年	梨雲齋昭信芳城日長居士
27	浜町⑦	友川助信	天保2(1831)年	青拍齋助信法暉日政居士
28	中橋⑮	永惠立信	明治24(1891)年	永惠院殿晴雪齋立信日善大居士
29	鍛冶橋	(鍛冶橋合葬墓1)		守徳院殿守政日永大居士他
30	鍛冶橋	(鍛冶橋合葬墓2)		養秀院孝清日忍大姉他
31	木挽町②	養朴常信	正徳3(1713)年	常心院古川道雲日觀大居士
32	木挽町③	如川周信	享保13(1728)年	晃曜院法眼周信龔雲日洽大居士
33	木挽町⑨	晴川院養信	弘化3(1846)年	晴川院殿會心齋法印養信日敷大居士
34	門人	英一蝶	享保9(1724)年	英受院一蝶日意居士
35	門人	融女謝恩碑	天保7(1836)年	
36	門人	橋本雅邦筆塚	大正11(1922)年	※非公開

墓標の形と大きさ

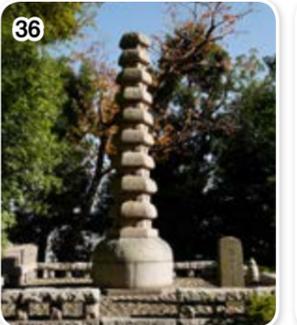
形は五輪塔・宝篋印塔・笠塔婆形、碑形など多様で、規模も大小あるが、それは家系・身分・年代に応じて選択されている。近世初頭には五輪塔・宝篋印塔が、17世紀後半以降には鍛冶橋家当主では笠塔婆形、木挽町家当主では亀跌碑形などが特徴的に用いられている。亀跌は中国から伝わった石碑形式の一つである。また当主と家族や門人とは隔絶した規模の差がある。このように墓の形や規模は御用絵師の社会を反映している。



主要墓所写真



2つの探幽墓
笠付碑形墓(1)と瓢形墓(2)が並びたつ探幽墓。落款を模した特徴的な瓢形墓が目されるが、こちらは昭和11年に目黒区永隆寺から改葬された分骨墓である。本来の墓は笠付碑形墓で、背面に刻まれた林鷲峰撰文の探幽墓誌は、探幽研究の基礎資料となっている。笠付碑形はその後の鍛冶橋家当主墓でも踏襲された(29・30、当主墓転用の合葬墓)。



南之院
狩野家の菩提供養の実務を担ったのが、本門寺塔頭であった南之院である。南之院の現本堂は、文政12年(1829)に狩野家によって寄進建立された。本堂須弥壇の天井板には表絵師芝愛岩下狩野家の探玄守明によって描かれた天井画が用いられている。また、山門の脇には、改修前の山門に用いられていた狩野家の家紋「三つ矢羽根」があらわされた鬼瓦が保存・展示されている。